

刊夕 日十二月二



定額 一部全額一ヶ月五元 三ヶ月十五元 半年三十元 一年六十元
廣告料 五號十二字 第一行五元 五行十五元
日曜祭日の翌日休刊
印刷所 常磐毎日新聞社 印刷部
電話 六二〇
發行所 常磐毎日新聞社 發行部
電話 六二〇

常磐炭田の開發と

片寄平藏 山口彌一郎

次に掲げる文書はその一端に過ぎないが風貌が窺はれる
乍恐書付奉願
上候
牧野備前守
領分
磐城國大森村
願人 平藏

不實出入
設樂八三郎様御
支配所
榎葉郡下小境村
相手 安兵衛
同 勘三郎
御同人様御支配所
同郡山田岡村
相手 染吉
右者磐城郡大森村願人平藏
乍恐書申上候今般前書
下小境村安兵衛同人伴勘三郎並山田岡村染吉三人
相手取不實出入之儀別紙調帳を以御訴訟奉申上候前書之の共儀懇意之間柄に付山方世話いたし度旨申し候に付任其意世話爲致山方入用の味噌等迄爲相送候間此利潤計りも不輕儀に付彼等共其頃迄者難澁に相見候處私方山

稼中より追々身體引直し當節に至り候而者假成之御百姓に相成藏等迄も普請仕候振合暮し方茂餘程宜敷相見江候處己前之恩報も聊不相辨私方に山方世話中差引殊多分相殘し置候に付手前勝手我儘致方は迄敷度及引合候而も何等の挨拶も不仕私津内を通行仕候而も現に八ヶ年爾來私宅杯江者立寄も不仕左候得者別紙差引殘之儀者勘定可仕所存者更に無之心底と乍恐奉存

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
【朝】味噌汁：豆腐
【晝】揚げ物：野菜
【晚】味噌漬焼：鮮魚
候刺安兵衛親子之もの共
に者去る大凶作之年柄杯
に者夫食等にも差支逼至
て難澁之趣相敷候に付麥
にて貳兩分貸遣し露命を
相續爲致候儀者少し茂不
願吳々も不實之致方言語
同斷難捨置心外之餘り乍
恐奉出訴候右之もの共に
者山稼中口錢等迄も差遣
し候儀信義忘却いたし別
紙之通り多分の差引用立

但諺等が斷片的に記され、漢法醫の用ひる藥草名等も記され事に當つて機を見るに早く轉々と英斷的に事業に突き進む概のあつたと共にゆとりのある多趣味な人であつたことが思はれる。彼れは商人的手腕、實に偉大であつた事は東奔西走種々の事業に手を出して相當の成績を上げてゐる事知られるが、單な利得殊に私利私得にのみ着眼する様

金迄も一圓勘定不仕不成其利金逆も壹錢も不相濟右様等閑に破致置候而者此上外山方之稼筋に茂相拘り江戸表開屋之手前等も不敷敷無據奉願上候依て重々奉恐入候江者何卒以御慈悲前書相手のの共御召出し右等の始末逸々御吟味被成下置御利解を以幾重にも乍恐速に元利共相濟候様被付付被下置候は誠以莫大之御慈悲難有仕合奉存候
嘉永七寅年三月
右願人 平藏
小名濱御役所
前書之通小名濱御役所に奉出訴度奉存候昨乍恐何卒以御慈悲御添簡被成下置候は誠以莫大之御慈悲と難有仕合奉存候
以上
嘉永七寅年三月
大森村願人
片寄平藏
同名主
猪狩泰右衛門
御代官様
尚ほ反面に旅人として種々のめづらしい出来事等に興味をもつてゐた彼の晩年の手帳の中には櫻田門外の變の浪人の氏名等細々と記しあり、旅のつれづれなるまゝに談笑する資料の覺書とも思はれる傳説、古歌

新築感謝

萬年筆大賣出

舊二日よりも景品呈上

記念金文字御名人無料
お氣に召す迄金ペン交換

五ヶ年絶對責任付
定價二圓以上
品種類豊富

平紺屋町角公園前
忠角
佐々木商店
電話二三三番

かまぼこ製造

お徳造

お惣菜用
さつよ揚
吉原揚

平町一丁目
電話一四一番

新車御披露

三十四年式「デラックス、セタン」入車
致しました。貸切の御用の節は是非御
試乗を御願ひ致します。

最新型セダン揃ました
電話六四〇番
「電話六四〇番」
尼子タクシー

有給社員數名募集

男女ヲ問ハズ奮闘家ハ來タレ
固定給及月收多希望者ハ午前中來
談アレ面會ノ上相談ス。

共保生命保險株式會社
磐城監督所
所長 福島健之
平町白銀町一〇

警東代理店 主管 加藤 丈夫
平代理店 主管 金子 豊吉

喜多流謠曲と仕舞の

お稽古をお勧め致します

平田町六九
喜多流 謠曲 白土會
電話一二七番

木村病院

入院隨意
病室完備

平町新川町十九
電話一六四番

産科 院長 木村寅次郎
婦人科
外科 醫學博士 内木宗八
藥局 藥劑師 立番彌一

純真な轉退學者を 悪童共と罵る

警中開設以來の驚異的數字

社會は是れを何と見る!

小樽山警中校長は昨日の『月曜是非』所載の如く赴任早々保護者會の席上で『成績の悪い生徒は退學させよ』と放言し其後往訪の記者に對し『悪童共はみな石川中學に追ひ拂つた!』と豪語した丈あつて同校長が昨年四月着任以來今日に至る迄の生徒の異動數は同校開設以來の新記録を示し其數七十三名の多きに達して居る、其の内譯

▽轉學(五年二名、四年六名、三年十名、二年四名、一年七名)合計廿九名
▽退學(五年八名、四年十一名、三年十一名、二年五名、一年五名)合計四十一名
▽死亡(三年、二年、一年各一名)合計三名
是れを前年の異動總數卅八名に比較すると實に卅五名の増加にて約倍に近い數字を示し教育上甚だ憂慮すべき幾多の問題を投げ掛けて居る

舊正月前の

強請整理が

奏効して納入續々

平縣稅務出張所では管内に於ける八年度前期分滯納額二萬二千二百五十六圓餘餘整理の爲め各係員が舊正月前を見込んで總動員で繰り出し最後の切り札として本月七日平町外七ヶ町村で公賣處分に付した結果公賣當日、小名濱水産試驗場場長飛塚

水産場場長更迭 縣立

縣水産界の開發に功績多く地元民に今回の祭轉を惜まれてゐる尙後任は三重縣水産試驗場技師中山琢三氏に白羽の矢が立つてゐると

平倉庫販米

廿一日に

高次氏は今回愛知縣水産課長に祭轉と内定本日中に發令をみる筈であるが同氏は大正十一年二月愛知技師から轉任され在職十一年で本

平町の豫算

總額卅三萬圓か

大体前年度を踏襲

平町に於ける九年度豫算は財源難の折柄その編成に當つて當局者も尠からず頭を悩ました模様で本日午後一時より町會議員に町長より内示あつたが結局新規事業を一切差控へ都市計劃費を置いた以外は大体に於て前年度踏襲と決し歳出合計卅三萬九千圓にて前年度の卅七萬六千九百九十九圓に比較する時は約四萬圓の減少となるべく是れが經常部は廿八萬七千圓臨時部四萬八千圓である而して歳入に於いて土地賣却及び過年度收入等の減少に依つて特別稅戶數割に於て一戸平均額一圓を増加し授業料を高等科八十錢であつたのを一圓商業學

上審議される筈

不動産競賣

町稅滯納で差押

平町役場では過般六年度町稅の滯納者五名に對し強制處分を行ひ左記不動産を差押へ來月三日午後二時より役場會議室で公賣に付する

平窪村字高田一畑一畝貳拾貳歩 同字二畑壹畝廿二歩 同字三畑參畝十四歩 平町字杉平四住家一棟 久保町三六家地拾坪の一合九勺 古鍛冶町七家地五拾二坪五合 胡摩澤一〇二家地百四十六坪

平町 人事
回婚 姻
△鍛冶町八小野勤氏(三三) 安積郡河内村字屋敷堀田マス(一一)

平町に於ける九年度豫算は財源難の折柄その編成に當つて當局者も尠からず頭を悩ました模様で本日午後一時より町會議員に町長より内示あつたが結局新規事業を一切差控へ都市計劃費を置いた以外は大体に於て前年度踏襲と決し歳出合計卅三萬九千圓にて前年度の卅七萬六千九百九十九圓に比較する時は約四萬圓の減少となるべく是れが經常部は廿八萬七千圓臨時部四萬八千圓である而して歳入に於いて土地賣却及び過年度收入等の減少に依つて特別稅戶數割に於て一戸平均額一圓を増加し授業料を高等科八十錢であつたのを一圓商業學

勞苦の結晶が

途方もない安値

不正商人に惑はされるなど

養蠶家に警告

そろ／＼春繭の出る頃となり例年各地に不正繭買人が現れ正直な農民の勞苦の結晶を途方もない安値で

買入るもの多いの

鑑み平著では近く管内養蠶家に對し嚴重な警告を發すると共に斷乎として之等不正商人を發見次第取締る方針である、インチキ商人

悪手段の例を擧げると秤とは別な分銅を用ひ一貫匁のうち二百匁乃至三百匁から胡麻化する者や、甚だしきは大口の取引になる一籠十餘貫を胡麻化する者もある、その他繭質が悪いと稱して直に出の中に

その袋をわけ無理に



感じの良い!
客に親切な……

藥種賣藥、工業藥品
衛生材料、各種染料
化粧品、其他

阿部藥舖
平・田町(松月堂)

中村齒科醫院
平町鍛冶町七

十三日會

存續と決定

桐谷氏の遺志を 繼いで隔月開催

昨夜マルトモで協議の結果

平町に於ける文化向上機關とし權威ある存在であつた十三日會存廢の

運命を決すべき協議會は昨十九日午後七時から平町マルトモホールに於て開かれた、同會幹事大森勇大嶺庫、猪狩庄平氏等及び平町各學校長その他有志參集して各自忌憚なき

意見を吐露し熱心なる協議の結果、同會は平町地方の文化向上を計る目的のため故桐谷磐中校長の手に依つて創立されたるものである以上、故人の遺志を尊重し又地方貢獻のためにも永久的に存續させたいとの意見に一致したので今月隔月に

開催し、益々同會の更生發展に邁進することになつた、これで心ある者をして秘かに憂慮の思を抱かした問題もここに氷解した譯である、右に就き同會幹事大森氏は語る

本會は故桐谷磐中校長の發起の下に九日、十三日の乃木祭を下して十數年前に創立された由緒を有

養ふならば定めし地下の桐谷氏も瞑す、事が出来るであらうと考へる、此の上は何時の時代にも、「十三日會」が警城文化の上に權威ある存在であると世人一般から肯定されるものであらしめたい

強風の被害少し

被害少し

昨十九日午前二時頃から石城地方一帯に亘つて吹き續けた強風は最高十一米最低九米の風速で平町では塙垣等の倒壊したものも多少有つたが被害らしい被害も見なかつた、尙平署及び平土木監督所等では各管内の被害を調査したが別項夏井村六十枚橋が橋板を飛ばされた外海上等にも被害はなかつたと

教へ子等が

社殿再建費釀出

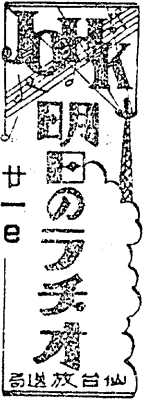
恩師への御恩報じに

神谷村字鎌田内に鎮座する村社五禮神社は最近社殿の腐朽甚しく同社司草野眞三氏は此の改築資金の才覺に奔走中の處同氏が數年前迄約廿年間に亘つて數鞭を執つた内郷村御願學校の卒業生百五十名が此の事を聞いて協議の結果毎月一名五十錢づゝ五ヶ年間に亘り醸出し恩師への報恩として再建資金に當てる事を決定今月より實行する事になつた

閑散

舊正月で

平職業紹介所では此處一週間に亘り舊正月にかゝつた結果求人求職者が激減し一日平均二三名の紹介にすぎず閑散を告げて居る今春三月卒業する小學兒童の就職について準備を開始し近く



天 今晩も明日も北西の風晴曇半す

今晩の部

後六、〇〇 子供の時間
「名作物語」東京放送児童話劇協會
後六、二五 言葉の講座
（第十一講）「卷舌の發音」
神保格趣味講演の夕日本
龍齊貞山
刀を語る
後七、三〇 古刀の話「本阿彌光遜刀の魂」本山荻舟
後八、五、連續講談「小金原の仇討」(第二席)一龍齊貞山
行ふ豫定であると

六十枚橋吹飛さる

青年團員等出勤修理

夏井村地内夏井川の六十枚橋は昨十九日烈風の爲め午後二時頃橋床六間餘を河中に吹き飛ばされ危殆に類したので同村青年團消防組員が出動して警戒に當り一時交通杜絶を見たが同夜七時假修繕を施し交通復舊した

作法研究教授

平第一小學校中村訓導は明日午後一時より高等科二年生に對し作法の研究教授を行ふと

内郷訓練修養

内郷村青年訓練所では来る廿三日午後一時より役場内に於いて所員及び一般希望者を招き修養座談會を催すと

アザラン見學

警女では本日全校生徒に對し教育資料として過般夏井村藤間海岸に於て捕獲されたアザランを見學せしめた

裁判所より

△双葉郡熊町村大字小入野字赤野谷番生れ目下住居不

平職業紹介所報告

求人を求める方
△外交員 二十以上 高卒 賣上の一割給
△雑役 二十迄 月五圓 外面談
△女中 二十三才 尋卒 給料面談
△小使 五十五迄 日給 七八十錢 外面談
△店員 二十才 尋卒 給

後九、三〇 時報 ニュース 氣象通報 番組環
明日の部
前七、〇〇 基礎英語講座
岡倉由三郎
前八、〇〇 あはれと子弟「教育塚田新」
後八、〇〇 家庭大學講座
「植物の常識」久内清孝
後八、三〇 社會見學大阪造幣局中繼
後五、三五 受驗講座 齋

定吉田幸作(三)が去る八日茨城縣多賀郡日立町字宮田一三二一貨物自動車業堀江常太郎方に至り今度叔父が日立鐵山に勤める事になつたから引越荷物を運搬して貰ひ度いと言葉巧みに騙し四十圓で運轉手石川二三吉助手木下幸太郎と共に同乗富岡町入口に差掛つた際腹が痛ひから一寸休ましてくれと其儘逃走した事件は過般來平檢事係りの下に取調べ中の處本日詐欺罪として起訴確立したので近日關口判事係り三堀檢事立會の下に公判開廷されると

藤茂
後六、〇〇 子供の時間
名作物語「ガリガア旅行記」東京放送児童話劇協會
後六、二五 基礎佛語講座 目黒三郎
後七、三〇 講演多門將軍を憶ふ一長谷部照伍少將
後八、〇〇 舞臺劇 大阪浪花座中繼新釋「出世太閤記」中村魁車一座
後八、三五 ショロフォン河合ダンス
後八、五〇 連續講談「小金原の仇討」一龍齊貞山
料面談
△小使 三十四才 尋卒 給料面談
△事務員 二十八才 高卒 給料面談
△事務員 二十八才 高卒 給料面談

美味!
芳醇!
宗正らひた
山崎合名會社
電話一〇番

銘劍秘笈

【禁無斷轉載上演映畫】

寶井馬琴 演
山本英春 畫

第六十一回 徳川家に崇る村正

とんだ殺生をした
茂兵衛は五左衛門と娘おちかを村端まで見送りどろどろと互ひに別れを告げて引き返す、それから五左衛門とおちかは今日で申す新婚旅行江戸を指して道中を續けることになつたが、固より五左衛門は身に大罪を犯してゐる者うかつに江戸へ這入れるものではない、尙ほ手足纏ひになるこのおちか、第一化物見た様なこの女を引張つて歩けたものではない、二十五兩の金を掠奪つて何行かて撒いてしまはうと考へたがどうもよい機会がない丁度日野の河原へ掛つて來たのは日暮方四邊を見ると幸ひ人影もない

五「おちか明日はもう江戸へ歸るに就いてツイ一刻も早く我が屋敷へ戻らう、お前にも見せやうと思ふ所から手前の宿で泊まれば宜かつたのを些と運び過ぎた」

ち「左様でございますね、もう日が暮れさうですが何か間違ひでもあつたらぬか間違ひでもあつたらぬか」

五「イヤ、其の心配は無用だ武士が付いてゐる、どんな者が出やうと心配はない」

ち「それはアノ何でございませう、私が持つて居りますもあなたも懐中へお入れ下さつても同じことでございますが、父が申しますにはお前が肌身離さずこの金を持つてゐなければならぬ、且那の様な方と一緒にゐるのは何よりだが然し一



百や三百の金にケチ／＼することはない」

ち「左様でもございませうがどうも……」

五「何がどうもだ」

ち「イヤ御立腹では恐れ入りますが、最初手前共へお遊ばした時、誠におやさしくて下さいました

五「女といふ物はもうちつとどうかしてゐる、貴様の様な化物に出逢つたらどんな奴で驚いて目を廻すだらう、モラ口を聞くのも嫌だ、サツサと消えて終へ」といきなり足を揚げるとおちかの胸の邊りをポンと蹴つた

ち「アレッ」

と後に倒れ

ち「エ、怨めしい、旦那様それではお前は私を欺まし散々慰さんだ其の上にもこんな處へ連れ出し金を奪つて殺さうといふ考へだつたのですね」

五「エ、やかましい誰が手前を殺すといつた、假りに一旦夫婦になつたものだから金せえ出しや命助けてやる、サア金を出せ」

と胸倉を取つて引立て

五「サア金を出さねえか」と拳を固めて横顔を二ツ三ツ續打ち

花柳病科 小兒科 内科
藤沼醫院
入院應需
町番七〇五 電話 五〇七

ち「アレッ、アレッ助けて下さい、人殺し」

と思はずとなつた

五「コレ、だ、だ、だ、黙らねえか」

ち「人殺し」

五「エ、憎い奴だ」

ドーンと突き放した五左衛門引き抜いた千吾村正躍り掛つておちかの胸元へザツクリ

ち「アッ」

と言つて仰向けにドウと倒れるその上へのし掛つて止めを刺しホツと息

五「エ、とんだ罪を造つたが背に腹は替えられねえ」

おちかの胸倉を引抜いて自分の懷中に納め刀を流れへ突き込んでボチャ／＼と洗ひ手拭で拭ひて鞘に納める、折から向ふにチラリと見える提灯の火、長居は無用とその儘一散走りに逃げ去る

10日 検査新設
体温計の検査日です
お宅の**体温計**は？

◎正確な体温計を御使用下さい
◎毎月十日の検査日御利用下さい

度量衡 指定販賣人
計量器
西村屋藥局
電話 三〇〇

木炭の!
御用命はお客様本位に勉強する
「電話二四四番」
多少に拘らず早速御届け致します
平一丁目
市原商店

吸入用酸素 純度 99%
体温計
寒暖計

度量衡 モノサシ
ハカリ

秤ノ取緒・垂糸・修繕致シマス

關内藥局
電話四〇番

寫真材料一式販賣致シマス